

銀後肥

帳票イメージ保管

営業店は紙原則ゼロ

半通株とじしチャG目・に業ナお考

【福岡】肥後銀行は、11月から帳票等の書類を原則営業店に置かず、本部でのデータ管理に改める「帳票イメージ保管システム」を導入した。店舗内店舗の導入に伴い統合店や軽量化店が増えている

【福岡】肥後銀行は、ことに加え、2020年夏の熊本県人吉地区水害を教訓とする事業継続計画（BCP）から整備した。

人吉水害では地区の4拠点が浸水し、書類が水にぬれた。被害は3拠点で671箱となり、1枚1枚汚れを流し乾かした。2カ月で

のべ470人が携わっ

た経験がある。

新保管システムは、プリマジェスト社（川崎市、稲垣秀秋社長）の分類機能付き超高速スキャナー（イメージバリュートーター）を2台導入。帳票データは、名刺大からA3サイズを1分間に300～500枚を読み込む。また、①保管年限ごとに分類②1枚ごとOCR画像に取り込み、QRコードを付す③顧客番号（CIF）

このイメージデータと検索データをひもづける——機能が特徴。QRコードの生成は無償。

11月15日に第1号で導入した菊池支店は、140種類の帳票で実施。同行では21年度に数力店で試行したのち、全店展開する予定。同行事務統括部は、「今後、公金や文書為替など紙書類のものは同じシステムに共用化していきたい」とする。